



M045

2026/02/25

RoHS

二段警報漏電リレー

取扱説明書

LEG-300LA



光商工株式会社

二段警報漏電リレーの安全上のご注意

このたびは、二段警報漏電リレーをお買い上げいただきありがとうございます。

二段警報漏電リレーを取り扱われる前に、注意書をよくお読みの上で正しく取り扱われますようお願いいたします。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。



安全上のご注意

- 濡れた手でさわらないでください。感電のおそれがあります。
- 制御電源は必要な時以外は切らないでください。
- 充電端子部に触れないでください。感電します。
- 不用意に試験スイッチを押さないでください。遮断器に接続してある場合は停電します。
- 二段警報漏電リレーのまわりに使用上及び点検上障害になるものを置かないでください。
- 直射日光が当たるところでは銘板が変色、変形するおそれがあります。
- 必要な時以外は取り外さないでください。取り外す場合は制御電源を切り、零相変流器のk,1端子を短絡してください。



施工上のご注意

- 誤った配線をするると二段警報漏電リレーを損傷し出火するおそれがあります。
- 制御電源の誤配線にご注意ください。P₀, P₁ 端子が AC100/110V、P₀, P₂ 端子が AC200/220V になります。
- 配線は必ず制御電源が切れていることを確認してから行ってください。
- 端子部外に電源の芯線が露出しないようにしてください。故障のおそれがあります。
- 零相変流器二次側の配線が大電流と並行するときは、電線をよりあわせるか、金属管に入れるなどして電磁遮蔽をしてください。配線の長さはなるべく短くしてください。
- 零相変流器の出力端子 k, 1 は接地しないでください。
- 高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動衝撃など異常環境に設置しないでください。



点検上のご注意

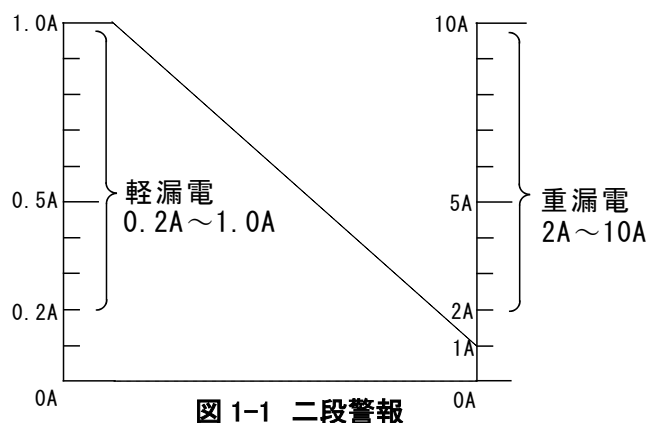
- 二段警報漏電リレーの Z1-Z2 の端子には直接試験電圧・試験電流を印加しないでください。焼損するおそれがあります。
- 月に 1 回程度、試験スイッチを押して、動作の確認をすることをおすすめします。遮断器に接続してある場合は遮断しますのでご注意ください。
- 清掃は柔らかい布で乾拭きしてください。
- 活線状態で感度試験を行うと、動作感度に誤差を生じるおそれがあります。

目次

1.	概要	4
1. 1	二段警報	4
1. 2	計測表示	4
1. 3	自己診断機能	4
2.	各部の名称	5
2. 1	各部の名称(前面)	5
2. 2	各部の名称(背面)	6
3.	機能と設定	7
3. 1	自己診断機能	7
3. 2	軽漏電感度電流設定	7
3. 3	重漏電感度電流設定	7
3. 4	軽漏電動作時間設定	8
3. 5	重漏電動作時間設定	8
3. 6	軽漏電復帰方式設定	8
3. 7	重漏電復帰方式設定	8
3. 8	高調波フィルタ設定	9
3. 9	自己診断設定	9
3.10	局番設定	9
3.11	最大漏電電流値保持機能	9
3.12	表示切り替え	10
3.13	設定値の保持について	10
3.14	出荷時の設定	10
4.	EIA-485 通信	11
4. 1	通信仕様	11
4. 2	レジスタ	11
4. 3	EIA-485 伝送部 外部接続図	
5.	点検方法と更新時期	12
5. 1	試験に必要な機器	12
5. 2	試験配線例	12
5. 3	感度電流試験	12
5.3.1	軽漏電の感度電流試験	12
5.3.2	重漏電の感度電流試験	13
5.3.3	軽漏電の動作時間試験	13
5.3.4	重漏電の動作時間試験	13
5. 4	更新時期	13
6.	システムの構成	14
6. 1	二段警報漏電リレーの構成	14
6. 2	二段警報漏電リレー(LEG-300LA)	14
6. 3	零相変流器(ZCT)	14
7.	外部接続図例	15
8.	ブロック図	15
9.	仕様	16
10.	外形図	17

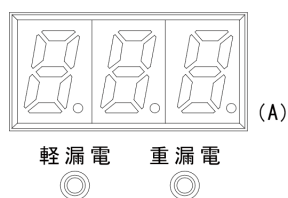
1. 概要

1.1 二段警報



軽漏電(0.2A~1.0A)、重漏電(2A~10A)の二段階で動作します。

1.2 計測表示



漏電電流値の、現在値、最大値を表示できます。(最大値は LEG-300LA の制御電源が切れても保持します。)

1.3 自己診断機能

自己診断機能を有しており、自己診断設定を「有効」に設定する事で、制御電源投入時、復帰スイッチによるリセット操作時に自己診断を行います。

また、それらの操作後 12 時間ごとに定期的に自己診断を行います。
(試験スイッチを押したときは、自己診断設定の「有効」、「無効」に関わらず、自己診断を行います。)

2. 各部の名称

2.1 各部の名称(前面)

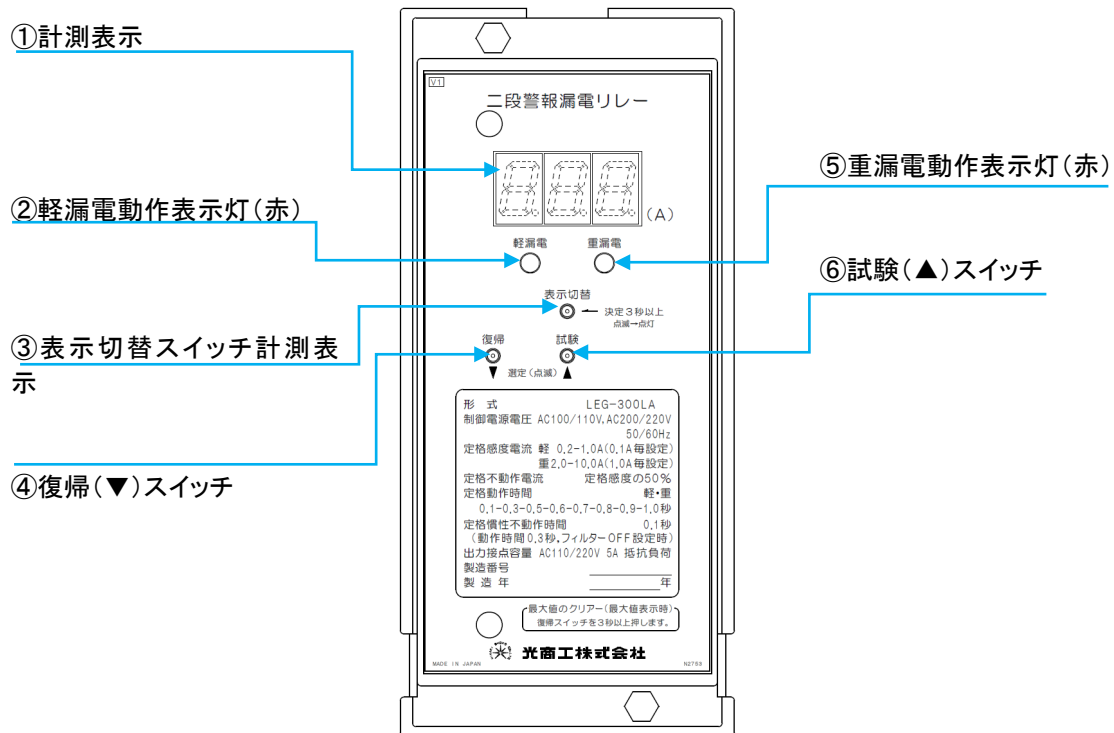


図 2-1 LEG-300LA 各部の名称(前面)

① 計測表示

現在値、最大値、設定値、エラー、プログラム番号等を表示します。

・最大値を表示している場合、3 秒以上長押しすると、最大値が消去(0 にリセット)されます。

② 軽漏電動作表示灯(赤)

軽漏電が動作すると、軽漏電の出力接点に同期して点灯します。

・最大値表示中は、重漏電動作表示灯と共に点滅します。

・各種設定の際は▼スイッチとして機能します。

⑤ 重漏電動作表示灯

・最大値表示中は、軽漏電動作表示灯と共に点滅します。重漏電が動作すると、重漏電の出力接点に同期して点灯します。

③ 表示切替スイッチ

計測表示へ表示する内容を切り替えます。

・設定画面では、3 秒以上長押しで表示項目を決定します。

⑥ 試験(▲)スイッチ

・試験スイッチを動作時間設定ぶん押しすると、軽漏電および重漏電の出力接点が動作し、それらの接点と同期して軽漏電動作表示灯および重漏電動作表示灯が点灯します。また、自己診断を行い、異常がある場合計測表示に”Err”を点滅表示します。

④ 復帰(▼)スイッチ

・押しとシステムリセットし、プログラム番号を表示します。(プログラム番号は、弊社の管理上の番号です。)

・LEG-300LA を手動復帰設定にしている場合、押しと動作状態から復帰し、システムリセットし、プログラム番号を表示します。

・各種設定の際は▲スイッチとして機能します。

2.2 各部の名称(背面)

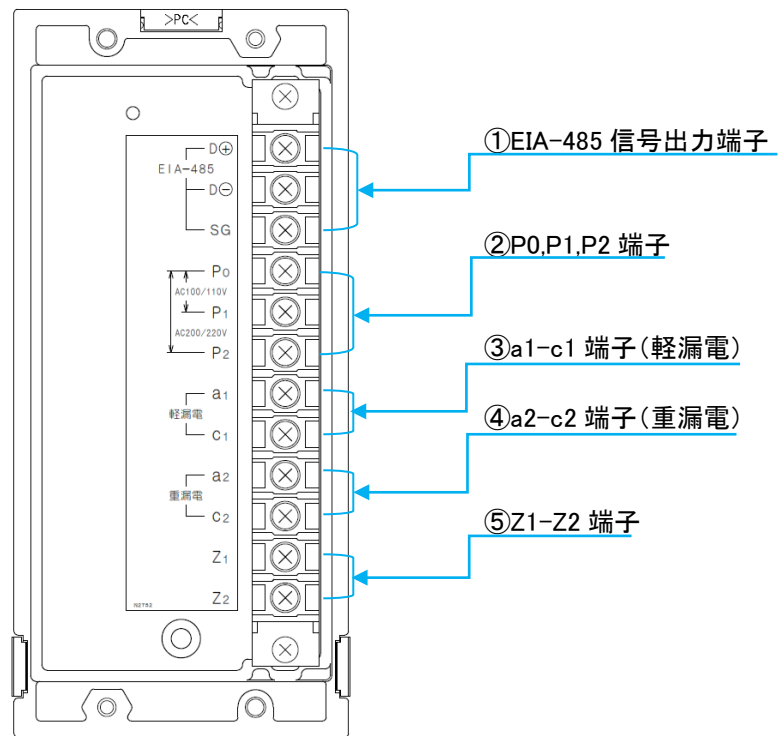


図 2-2 LEG-300LA 各部の名称(背面)

- | | |
|---|--|
| <p>① EIA-485 信号出力端子
EIA-485 の信号出力端子です。</p> | <p>④ a2-c2 端子
重漏電出力用の無電圧a接点です。

・重漏電が動作するとメイクします。</p> |
| <p>② P0,P1,P2 端子
制御電源入力端子です。

・AC100/110V の場合 P0-P1 端子間に電圧を入力します。

・AC200/220V の場合 P0-P2 端子間に電圧を入力します。</p> | <p>⑤ Z1-Z2 端子
ZCT からの信号の入力端子です。

Z1 端子→ZCT の k 端子
Z2 端子→ZCT の 1 端子

に接続します。</p> |
| <p>③ a1-c1 端子
軽漏電出力用の無電圧a接点です。

・軽漏電が動作するとメイクします。</p> | |

3. 機能と設定

3.1 自己診断機能

定期的に自動で内部回路を試験する自己診断機能を搭載しています。
自己診断は、検出している漏電電流が重漏電感度電流整定値の 50%以下の状態の時のみ以下の間隔で実施します。
自己診断は、制御電源周波数の試験信号を利用して行います。

- ・自己診断実施時間(試験信号印加時間)は、0.2 秒以下です。
- ・自己診断機能は初期状態で「無効」に設定されていますので、使用する場合は設定を「有効」に変更してください。
- ・自己診断を行うタイミングは以下の通りです。

○制御電源投入後	約 8 秒経過
○リセット操作後	約 8 秒経過
○試験/自己診断異常終了後	約 13 秒経過
○自己診断判定不可終了後	約 13 秒経過
○試験/自己診断正常終了後	約 12 時間経過

自己診断で異常があると、**図 3-1** の様に、計測表示に”Err”と点滅表示されます。

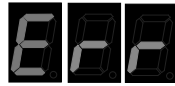


図 3-1 Err 表示

3.2 軽漏電感度電流設定

表示切替スイッチを押し、軽漏電の感度電流設定を表示している状態で、試験(▲)スイッチまたは復帰(▼)スイッチを押すと表示している感度電流設定値が点滅し、0.2~1.0A まで 0.1A ずつ切り替わります。

変更したい感度電流値が表示されている状態で、表示切替スイッチを 3 秒以上押し続けると設定が変更されます。(操作が無い状態で約 10 秒経過すると、設定変更は行われずに現在値表示に戻ります。)

軽漏電感度電流設定表示は**図 3-2** のとおりです。(軽漏電は感度電流整定値の前に”L”が表示されます。)



図 3-2 軽漏電: 感度電流 0.2A 設定表示

3.3 重漏電感度電流設定

表示切替スイッチを押し、重漏電の感度電流設定を表示している状態で、試験(▲)スイッチまたは復帰(▼)スイッチを押すと表示している感度電流設定値が点滅し、2~10A まで 1A ずつ切り替わります。

変更したい感度電流値が表示されている状態で、表示切替スイッチを 3 秒以上押し続けると設定が変更されます。(操作が無い状態で約 10 秒経過すると、設定変更は行われずに現在値表示に戻ります。)

重漏電感度電流設定表示は**図 3-3** のとおりです。(重漏電は感度電流整定値の前に”H”が表示されます。)



図 3-3 重漏電: 感度電流 8.0A 設定表示

3.4 軽漏電動作時間設定

表示切替スイッチを押し、動作時間設定を表示している状態で、試験(▲)スイッチまたは復帰(▼)スイッチを押すと表示している動作時間設定値が点滅し、0.1, 0.3, 0.5, 0.6, 0.7, 0.8, 0.9, 1.0 秒の順に切り替わります。

変更したい動作時間設定値が表示されている状態で、表示切替スイッチを3秒以上押し続けると設定が変更されます。(操作が無い状態で約10秒経過すると、設定変更は行われずに現在値表示に戻ります。)

軽漏電動作時間設定表示は図3-4のとおりです。



図 3-4 軽漏電: 動作時間 0.3 秒設定表示

3.5 重漏電動作時間設定

表示切替スイッチを押し、動作時間設定を表示している状態で、試験(▲)スイッチまたは復帰(▼)スイッチを押すと表示している動作時間設定値が点滅し、0.1, 0.3, 0.5, 0.6, 0.7, 0.8, 0.9, 1.0 秒の順に切り替わります。

変更したい動作時間設定値が表示されている状態で、表示切替スイッチを3秒以上押し続けると設定が変更されます。(操作が無い状態で約10秒経過すると、設定変更は行われずに現在値表示に戻ります。)

重漏電動作時間設定表示は図3-5のとおりです。

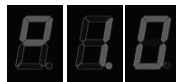


図 3-5 重漏電: 動作時間 1 秒設定表示

3.6 軽漏電復帰方式設定

表示切替スイッチを押し、軽漏電復帰方式設定を表示している状態で、試験(▲)スイッチまたは復帰(▼)スイッチを押すと表示している復帰方式設定が点滅し、自動復帰("AU"表示)と手動復帰("AL"表示)が切り替わります。

変更したい復帰方式設定が表示されている状態で、表示切替スイッチを3秒以上押し続けると設定が変更されます。(操作が無い状態で約10秒経過すると、設定変更は行われずに現在値表示に戻ります。)

軽漏電復帰方式設定表示は図3-6のとおりです。



図 3-6 軽漏電: 自動復帰設定表示

3.7 重漏電復帰方式設定

表示切替スイッチを押し、重漏電復帰方式設定を表示している状態で、試験(▲)スイッチまたは復帰(▼)スイッチを押すと表示している復帰方式設定が点滅し、自動復帰("AU"表示)と手動復帰("AL"表示)が切り替わります。

変更したい復帰方式設定が表示されている状態で、表示切替スイッチを3秒以上押し続けると設定が変更されます。(操作が無い状態で約10秒経過すると、設定変更は行われずに現在値表示に戻ります。)

重漏電復帰方式設定表示は図3-7のとおりです。



図 3-7 重漏電: 手動復帰設定表示

3.8 高調波フィルタ設定

高調波フィルタはソフトウェアによるローパスのデジタルフィルタで、高調波フィルタを有効にすることで、検出電流の高調波成分を更にカットします。(高調波フィルタをオフに設定していても、弊社の他の漏電リレーと同程度のローパスフィルタ機能(第三高調波で-6dB以上の減衰率)を有しております。)

表示切替スイッチを押し、高調波フィルタ設定を表示している状態で、試験(▲)スイッチまたは復帰(▼)スイッチを押すと表示している高調波フィルタ設定が点滅し、フィルタ有効(“Fon”表示)とフィルタ無効(“Fof”表示)が切り替わります。

変更したい設定が表示されている状態で、表示切替スイッチを3秒以上押し続けると設定が変更されます。(操作が無い状態で約10秒経過すると、設定変更は行われずに現在値表示に戻ります。)

高調波フィルタ設定表示は図3-8、図3-9のとおりです。



図 3-8 高調波フィルタ有効表示

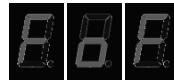


図 3-9 高調波フィルタ無効表示

3.9 自己診断設定

表示切替スイッチを押し、自己診断設定を表示している状態で、試験(▲)スイッチまたは復帰(▼)スイッチを押すと表示している自己診断設定が点滅し、自己診断「有効」(“Son”表示)と自己診断「無効」(“Sof”表示)が切り替わります。

変更したい設定が表示されている状態で、表示切替スイッチを3秒以上押し続けると設定が変更されます。(操作が無い状態で約10秒経過すると、設定変更は行われずに現在値表示に戻ります。)

自己診断設定表示は図3-10、図3-11のとおりです。



図 3-10 自己診断有効表示

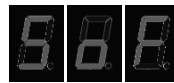


図 3-11 自己診断無効表示

3.10 局番設定

表示切替スイッチを押し、局番設定を表示している状態で、試験(▲)スイッチまたは復帰(▼)スイッチを押すと表示している局番設定が点滅し、局番が0～99の範囲で順次切り替わります。

変更したい設定が表示されている状態で、表示切替スイッチを3秒以上押し続けると設定が変更されます。(操作が無い状態で約10秒経過すると、設定変更は行われずに現在値表示に戻ります。)

自己診断設定表示は図3-10、図3-11のとおりです。



図 3-10 自己診断有効表示



図 3-11 自己診断無効表示

3.11 最大漏電電流値保持機能

検出した最大の漏電電流値(以下、最大値)を記憶します。記録された最大値は最大値表示中に復帰スイッチを3秒以上押し続けると消去(0にリセット)されます。

※制御電源が遮断されても最大値は消去されません。

※最大値表示中は、軽漏電と重漏電の動作表示が共に点滅します。

※試験操作及び自己診断実施後は、試験信号の誤記録防止のため、約2秒間最大値の記録を停止します。

3.12 表示切り替え

表示切替スイッチを押す毎に図 3-12 の順に表示が切り替わります。
(操作が無い状態で約 10 秒経過すると現在検出している漏電電流(現在値)の表示に戻ります。)

 ● ● 【現在値】 0.00A 表示例	▶	 ● ● 【最大値】 12.6 表示例	▶	 ● ● 【軽漏電感度電流設定】 0.2A 設定表示例	
▶	 ● ● 【重漏電感度電流設定】 8.0A 設定表示例	▶	 ● ● 【軽漏電動作時間設定】 0.3 秒設定表示例	▶	 ● ● 【重漏電動作時間設定】 1.0 秒設定表示例
▶	 ● ● 【軽漏電復帰方式設定】 自動復帰設定表示例	▶	 ● ● 【重漏電復帰方式設定】 手動復帰設定表示例	▶	 ● ● 【高調波フィルタ設定】 フィルタ有効表示例
▶	 ● ● 【自己診断設定】 自己診断無効表示例	▶	 ● ● 【局番設定】 0h 設定表示例	▶	繰り返し 順に表示

図 3-12 表示切り替え

3.13 設定値の保持について

感度電流設定、動作時間設定、復帰方式設定、フィルタ設定、自己診断設定は、制御電源が切れた場合でも保持します。

3.14 出荷時の設定

出荷時の設定は以下のようになっております。

- | | | |
|---------------|-----------|-----------|
| ○感度電流設定 | 軽漏電：0.5A | 重漏電：5A |
| ○動作時間設定 | 軽漏電：0.3 秒 | 重漏電：1.0 秒 |
| ○復帰方式設定 | 軽漏電：自動復帰 | 重漏電：自動復帰 |
| ○フィルタ設定 | 無効 | |
| ○自己診断設定 | 無効 | |
| ○EIA-485 局番設定 | 0h | |

4.EIA-485 通信

LEG-300LA は EIA-485 を利用したデータ通信が可能です。通信仕様は以下になります。

4.1 通信仕様

表 4-1 通信仕様

通信方式	EIA-485 半二重通信方式 ※ねじ端子台接続: +-, SG ※シールド付き 2 対ツイストペア線 (CPEV-SB 0.9mm 同等品)
プロトコル	Modbus RTU
通信速度	57.6kbps
パリティ	偶数
ストップ	1 ビット
配線長	500m 以下
送受信切替時間	5ms 以下

4.2 レジスタ

表 4-2 レジスタ

ファンクションコード	レジスタ番号	項目	値
4h	0	漏れ電流(I0)	0 ~ 1300 (mA)
	1	漏れ電流(I0) 最大値	0 ~ 1300 (mA)
	2	監視システム状態	1h: 初期状態(起動時) 2h: 監視待機状態 4h: 監視状態 8h: 試験状態 10h: 自己診断状態 20h: 異常状態
	3	接点状態	重漏電(上位バイト) 軽漏電(下位バイト) 0h: 復帰 1h: 動作
6h	0	本体リセット	1h: リセット
	1	最大値クリア	0h: クリア 記憶している I0 最大値を 0.00A に初期化

4.3 EIA-485 伝送部 外部接続図

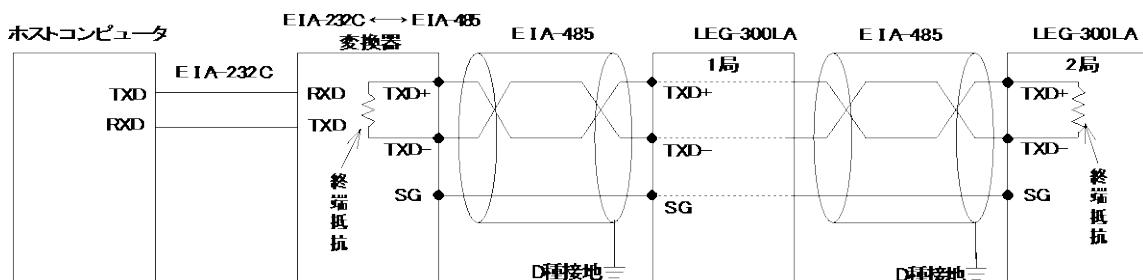


図 4 EIA-485 外部接続図例

- ・ EIA-485 は送り配線としてください。
- ・ 伝送ケーブル毎のシールド層をホストコンピュータから見て遠い方で一点接地してください。
- ・ 図のホストコンピュータ、EIA-232C \leftrightarrow EIA-485 変換器は、お客様でご用意ください。

5.点検方法と更新時期

月に1回程度、試験スイッチを押して、動作の確認をすることをおすすめします。

注意

遮断器に LEG-300LA が接続してある場合に試験スイッチを押すと、遮断器が遮断しますのでご注意ください。

毎年の定期点検は次のように行います。

5.1 試験に必要な機器

漏電継電器試験器等

5.2 試験配線例

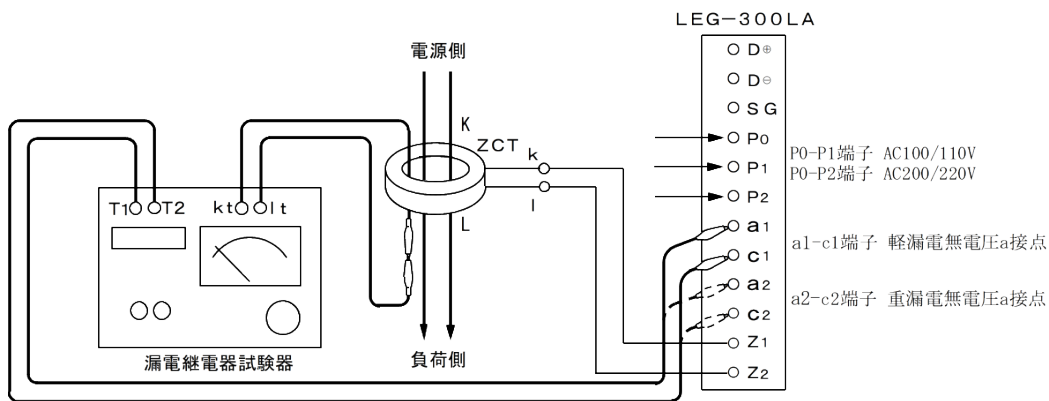


図5 LEG-300LA の試験配線例

注意

Z1,Z2端子には直接試験電流を印加しないでください。LEG-300LAが焼損する可能性があります。

注意

試験器または別電源から二段警報漏電リレーに制御電源を供給する場合は、P0,P1 端子、または P0,P2 端子の配線を外してください。

5.3 感度電流試験

5.3.1 軽漏電の感度電流試験

- ①軽漏電の感度電流整定値を測定したい感度電流値に設定します。
- ②軽漏電の動作時間を出来るだけ早い時間(0.1s 推奨)に設定します。
- ③漏電継電器試験器の電流出力(kt,lt)の配線を ZCT に通して接続するか、
試験器の kt→ZCT の kt 端子
試験器の lt→ZCT の lt 端子
に接続します。(極性は逆でも問題ありません。)
- ④漏電継電器試験器の接点入力(T1,T2)配線を
試験器の T1→LEG-300LA の a1 端子
試験器の T2→LEG-300LA の c1 端子
に接続します。
- ⑤漏電継電器試験器の電流出力を徐々に増加させます。
- ⑥LEG-300LA の軽漏電が動作したときの感度電流値を測定します。(これが軽漏電の感度電流値になります。)

5.3.2 重漏電の感度電流試験

- ①重漏電の感度電流整定値を測定したい感度電流値に設定します。
- ②重漏電の動作時間を出来るだけ早い時間(0.1s 推奨)に設定します。
- ③漏電継電器試験器の接点入力(T1,T2)配線を、
試験器の T1→LEG-300LA の a2 端子
試験器の T2→LEG-300LA の c2 端子
に接続します。
- ④漏電継電器試験器の電流出力を徐々に増加させます。
- ⑤LEG-300LA の重漏電が動作したときの感度電流値を測定します。(これが重漏電の感度電流値になります。)

5.3.3 軽漏電の動作時間試験

- ①軽漏電の動作時間整定値を測定したい動作時間に設定します。
- ②漏電継電器試験器の接点入力(T1,T2)配線を、
試験器の T1→LEG-300LA の a1 端子
試験器の T2→LEG-300LA の c1 端子
に接続します。
- ③漏電継電器試験の電流出力を軽漏電の感度電流整定値の 100%の電流値に設定します。
(例:軽漏電 0.2A 整定であれば、漏電継電器試験器の電流出力を 0.2A に設定)
- ④設定した条件で、LEG-300LA に漏電継電器試験器の電流出力を急に加え、動作時間を測定します。
(これが軽漏電の動作時間になります。)

5.3.4 重漏電の動作時間試験

- ①重漏電の動作時間整定値を測定したい動作時間に設定します。
- ②漏電継電器試験器の接点入力(T1,T2)配線を、
試験器の T1→LEG-300LA の a2 端子
試験器の T2→LEG-300LA の c2 端子
に接続します。
- ③漏電継電器試験の電流出力を重漏電の感度電流整定値の 100%の電流値に設定します。
(例:重漏電 2A 整定であれば、漏電継電器試験器の電流出力を 2A に設定)
- ④設定した条件で、LEG-300LA に漏電継電器試験器の電流出力を急に加え、動作時間を測定します。
(これが重漏電の動作時間になります。)

5.4 更新時期

日本電機工業会では、保護継電器類の更新時期は使用開始後 15 年とされています。

しかし、この値は製造者の保証値ではなく、日常点検及び定期点検の実施を前提として、これを目安に更新することを推奨するとなっています。

6. システムの構成

6.1 二段警報漏電リレーの構成

二段警報漏電リレー(LEG-300LA)は表 6-1 の機器によって構成されます。

表 6-1 LEG-300LA の構成

名称	形式	備考	数量
二段警報漏電リレー	LEG-300LA	二段警報漏電リレー 本体です。	監視箇所数分
零相変流器	M30 SM41, SM64, SM106, SM120, SM156BR, SM240BR BMC30・30U, BMC41・41U, BMC64・64U, BMC106・106U DM55B, DM70B, DM100B ZC シリーズ から選定		

6.2 二段警報漏電リレー(LEG-300LA)

軽漏電と重漏電の二段階で動作する漏電リレーです。零相変流器(ZCT)と組み合わせて使用します。

6.3 零相変流器(ZCT)

二段警報漏電リレー(LEG-300LA)と組み合わせて使用する ZCT は、使用電路の定格電流、貫通電線の太さ、分割形とするか、一次導体付きとするか、などを考慮して選択します。

選択できる主な零相変流器は表 6-2 の通りです。

表 6-2 LEG-300LA と組合せ可能な、主な零相変流器(ZCT)

形式	貫通穴径	定格一次電流	質量	外装色	備考
※1 M30	φ 30	100 A	約 0.3 kg	マンセル記号 N2	貫通形
SM41	φ 41	200 A	約 0.7 kg	マンセル記号 N2 (側面鉄板 N1.5)	
SM64	φ 64	400 A	約 1.2 kg		
SM106	φ 106	800 A	約 2.7 kg		
SM120	φ 120	1200 A	約 3.9 kg		
SM156BR	φ 156	2400 A	約 9.3 kg	茶色	
SM240BR	φ 240	3200 A	約 29.0 kg	(側面鉄板 N1.5)	
※1 BMC30	φ 30	100 A	約 0.2 kg	黒色	
BMC41	φ 41	200 A	約 0.4 kg		
BMC64	φ 64	400 A	約 0.8 kg		
BMC106	φ 106	800 A	約 1.8 kg		
※1※2 BMC30U	φ 30	100 A	約 0.2 kg		
※2 BMC41U	φ 41	200 A	約 0.4 kg		
※2 BMC64U	φ 64	400 A	約 0.8 kg		
※2 BMC106U	φ 106	800 A	約 1.8 kg		
DM55B	φ 55	300 A	約 0.9 kg		
DM70B	φ 70	400 A	約 4.4 kg		マンセル記号 N2
DM100B	φ 100	600 A	約 6.0 kg	分割形	

※1 B種接地線用としてご使用できます。

※2 上部端子構造になります。

※ 一次導体付零相変流器(ZC シリーズ)も組み合わせできます。(詳細は ZCT カタログをご参照ください)

※ 零相変流器(BM30, BM41, BM64, BM106, SM156, SM240)も組み合わせできます。

7.外部接続図例

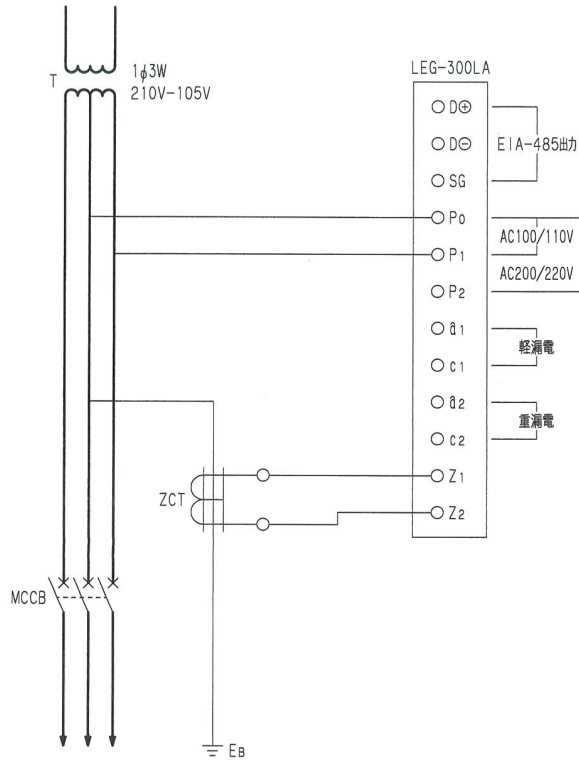


図 7 外部接続図例

8.ブロック図

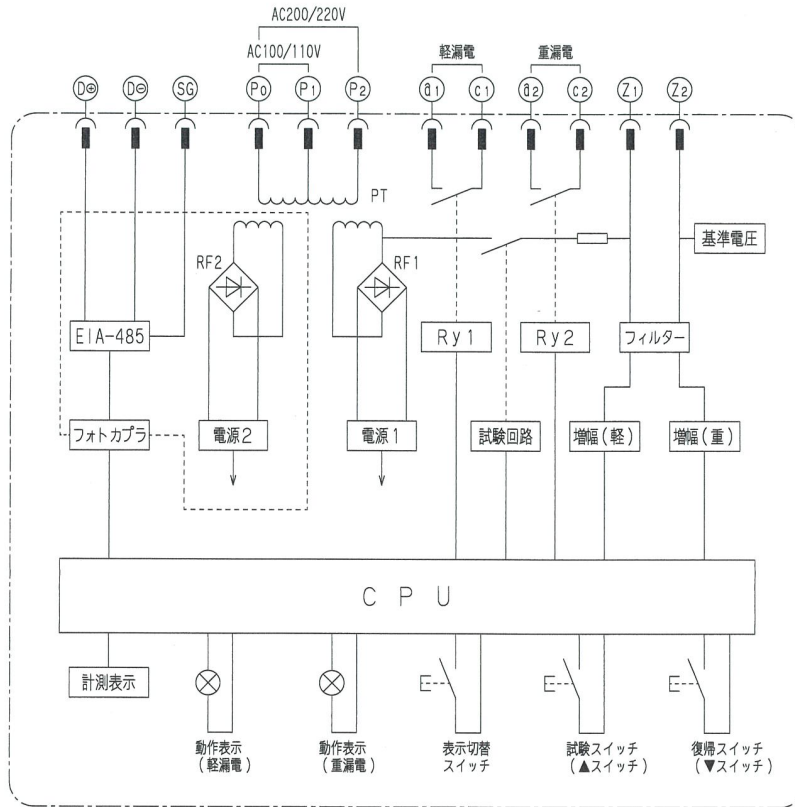


図 8 ブロック図

9.仕様

表 9 二段警報漏電リレー(LEG-300LA)仕様

定格感度電流整定値	軽漏電 0.2-0.3-0.4-0.5-0.6-0.7-0.8-0.9-1.0A 重漏電 2-3-4-5-6-7-8-9-10A	
感度電流許容範囲	51~100%	
不動作電流	0~50%	
定格動作時間	軽漏電 0.1-0.3-0.5-0.6-0.7-0.8-0.9-1.0s 重漏電 0.1-0.3-0.5-0.6-0.7-0.8-0.9-1.0s	
動作時間許容範囲 (感度電流 100%印加)	0.10s 以下 (0.1s フィルタ OFF 時) 0.11s 以下 (0.1s フィルタ ON 時) 定格動作時間の-30%~+20% (0.1s 以外 フィルタ ON/OFF 共通)	
慣性不動作時間 (0.3s 整定は、 フィルタ OFF 時)	軽漏電整定値 0.1-0.3-0.5-0.6-0.7-0.8-0.9-1.0s 慣性不動作時間 ×-0.1-0.2-0.3-0.4-0.5-0.6-0.7s 重漏電整定値 0.1-0.3-0.5-0.6-0.7-0.8-0.9-1.0s 慣性不動作時間 ×-0.1-0.2-0.3-0.4-0.5-0.6-0.7s	
制御電源電圧	AC100/110V P0,P1 端子 AC200/220V P0,P2 端子	
制御電源電圧範囲	85 ~ 110%	
周波数	50/60Hz	
消費電力	4VA 以下 (AC100V 時)	
計測表示	LEG 数値表示 3桁(橙) 計測範囲 0.00~9.99A, 10.0~13.0A (13.0A 超過は 13.0A 点滅表示) 確 度 ±10%±1digit 分解能 0.01A(10A 未満)、0.1A(10A 以上)	
異常表示	計測表示器に”Err ”を点滅表示	
試験表示	計測表示器に”8.8.8”を表示	
動作表示	LED (赤) 軽漏電、重漏電 ※復帰方式は各出力接点の設定と同じ	
出力接点	構成	1a (軽漏電、重漏電 各 1a)
	開閉容量	AC110V 5A(抵抗負荷) 2A(cos φ =0.4) AC220V 5A(抵抗負荷) 1.5A(cos φ =0.4) DC100V 0.6A(抵抗負荷) 0.2A(L/R=7ms)
	復帰方式	自動/手動
試験	押しボタンスイッチ方式、自己診断方式	
重地絡耐量	AC600A(連続) AC5000A(動作時間最大設定値以下)	
絶縁抵抗	20MΩ 以上 (DC500V メガーにて) ※1,2,3	
商用周波耐電圧	AC2000V 1 分間 ※1	
	AC1500V 1 分間 ※2	
	AC1000V 1 分間 ※3	

※1 電気回路一括と外箱間

※2 電気回路相互間

※3 開極接点間

10.外形図

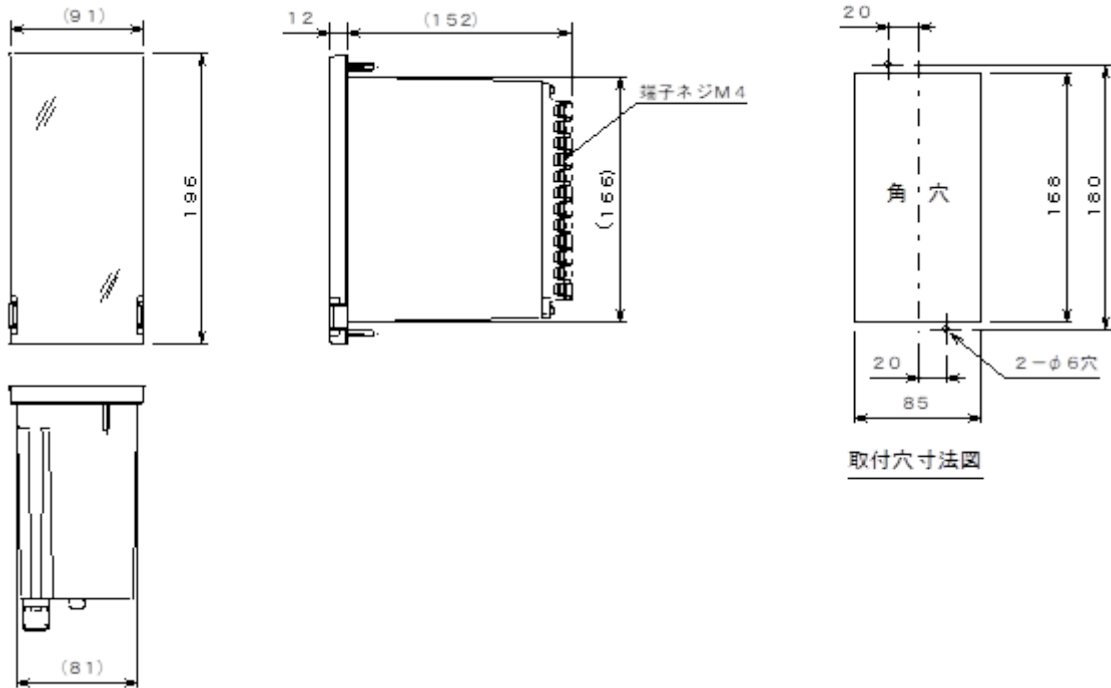


図 10 外形図



光商工株式会社

<https://www.hikari-gr.co.jp/>

継電器営業部
03-3573-1362

大阪営業所
06-6364-7881

名古屋営業所
052-241-9421

福岡営業所
092-781-0771

製品に関するお問い合わせ先

光商工 Webサイト：お問い合わせフォーム

<https://www.hikari-gr.co.jp/contact/product-inquiry-form.html>

